

## 2016 年度 事業報告書

特定非営利活動法人  
茅ヶ崎公園自然生態園管理運営委員会

指定管理も第3期となりました。その1年目となる2016年度、「自然環境を地域の財産としてより豊かに、未来へ引き継ぐ」ことを基本方針として、地域の方々に自然の恵みと魅力を感じていただけるように管理を行いました。

年度後半には、現在取り組んでいる自然環境の再生と環境教育活動についてまとめ、2016年度横浜市環境活動賞に応募しました。結果、市民の部大賞と生物多様性特別賞をいただくことが決まり、今後の活動に向けて、大きな励みとなりました。

### 【施設管理事業】

**植生豊かな公園づくり** 自然再生活動の成果として、来園者が里山風景として花や緑を楽しめるように心がけました。夏季には園路周辺が低木や草で覆われないように、草刈りや剪定を行いました。初夏5、6月、草木の繁茂する時期は正に年度初めの繁忙期と重なり、草刈り作業が後手に回することは毎年のジレンマです。最近日はあたりのよい水辺周辺にスギナが大繁殖し、他の小さい野草を圧倒する勢いがあるため、スギナ抑制も課題となっています。



繁茂するスギナ

定例保全作業では会員の皆さんと共に、林床の日照改善を図るための間伐や低木刈り、ササ刈りを中心に行いました。秋以降、東山の斜面を継続して手掛け、冬の明るい谷戸の景観が見られました。

**枯木倒木、落枝被害抑制** 「維持管理水準書」に基づき、園路周辺の枯木や枯枝の発生、園路の状況、設置したベンチや柵の腐食等、来園者が安心して散策できるように注意しました。必要に応じて伐採や剪定、修繕等を行いました。特に枯枝の発生には留意し、巡回時のほか年2回、枯枝点検を丁寧に実施し、団体で処理できないものについては横浜市に相談しました。

**伐採と活用** 枯木や林床回復のために横浜市による間伐12本のほか、団体費用にて4本を伐採しました。



滑車で丸太をおろす

都合により伐採木が林内に残ることもありますが、山からの丸太を降ろすのは大変な重労働です。作業軽減のため、試みとして立木にロープをかけ、滑車で丸太を降ろしました。運搬や伐採等、会員・スタッフの安全を第一とし、作業では工夫を重ねています。

去年は丸太を広場に積んだまま月日が経ってしまうことがありましたが、薪や土留めなど早めの活用をすすめました。東山の裾の土砂崩れや、園路の仕切り用に、丸太を土留めとして利用しました。

**害虫** 被害を防ぐため、毒毛虫発生木の伐採、ハチトラップ設置、やぶや竹林整備等による蚊の発生場所を減らす等出来る限りの予防対策を行いました。いずれも簡単なことではなく、完全には対処しきれないのが現状です。

**枯枝ほか管理** 作業後のササや枝の処理にチップパーは必需品です。機械の使用頻度が高く、部品交換や修理が度々必要となっており、スタッフがその都度、処理しています。カエル池下流のせせらぎ沿い崖地では、60×60×60cm大の穴が2か所あき、地面が陥没しました。木材を組んで埋め修復しました。地下には水流による空洞が見られたことから、今後も周辺では陥没の恐れがあり、注意が必要です。

また、トイレ施設も使用開始して7年余り経過し、ポンプや扉の不具合、チョウバエ発生等トラブルが時々発生していますが、清掃担当の方が処置しています。こうした技能に長けた方々がいることで、団体内で処理

できてしまうことが多く、恵まれた状況にあります。しかし、経年的に専門業者に依頼しなければならないことの増える可能性もあります。高木の枯枝除去等危険な作業をはじめとして、横浜市に相談していきます。

## 課題

・初夏の作業 ・害虫対策 ・横浜市への枯枝除去等依頼



コシオガマ

## 【自然再生事業】

### ＜植物管理＞

特に大きな問題は生じていませんが、東西の山での高木の成長による日照不足、低木類の増殖による林床の暗さが気になる場所が多くあり、この状況に対する対処が必要でした。東山では、高木については、横浜市に依頼しての伐採に加えて、生態園費用での伐採も行い、かなり日照は改善されました。低木、小高木については、課題であった東山北側斜面の手入れにも手をつけることができ、ほぼ全域にわたって手をつけることができました。西山では、田んぼ西側のコナラほか、移入後生育が著しいカラスザンショウなどの伐採も行うことができました。しかし、どちらの山でも、明るくなった場所での実生株の生育は著しく、林床の改善のための作業の継続が必要ですが、人手不足は否めず、苦しいところです。

田んぼ畔の改善工事を行った関係で、アリアケスミレ、ゲンノショウコ、コケオトギリなど田んぼ畔を好む植生の維持が必要でしたが、アリアケスミレ、ゲンノショウコについては土壌の保存や株の保護によって一先ず維持することができました。更に難しいと思われたのはコケオトギリですが、これについては土壌を保存して工事終了後に復元を図り、種子からの発生を期待していますが、結果は初夏まで待たないと分かりません。

課題はあるものの、全体的には植生環境は改善されてきており、開園時からの課題であったカマツカ、マユミ、ガマズミ、ヤマコウバシ、ハナイカダなど落葉低木類の安定した生育もほぼ達成されつつあります。他にもコシオガマの新規発生、ヤマノイモ雌花の初確認、ミツバアケビの昨年に続く結実、ツリバナの新規確認、実生から生育したオオシマザクラ、イヌザクラの開花など好ましい結果も得られています。一方、イチヤクソウ、オトギリソウ、オオバトソウなどの生育状況は依然として思わしくなく、心配な状態が続いています。

帰化種の侵入にも注意していなければなりません。フラサバソウ、アレチギシギシ、ミチタネツケバナなどの侵入がありますが、大きな問題とはなっておらず、在来種による植生環境は安定して来ていると考えられます。

### ＜水辺管理＞

**池のかいぼり** ポンプで排水し、池中央に水を残して浅瀬を干し、水流入部のアシ原の縁に沿って泥を浚い、バケツリレーで田んぼに投入しました。教育委員会の委託事業として行い、東海大学、内水面試験場ほかの協力をいただいて実施しました。

**外来種駆除** 2016年度はアメリカザリガニを園全体で2161匹捕獲しました（資料P7）。定期的駆除開始から13年がたち、低密度であると考えられるものの、未だに根絶の目途は立ちません。池には外来種と思われるコイが4匹生息し、繁殖も懸念されます。両者は生態系に甚大な影響を与えると指摘されています。また、4年程前から西門の外で観察されていたモリアオガエル（国内移入種）が園内に入り、カエル池での産卵が確認されたため、区内ペットショップと連携し、駆除に取り組みました。



モリアオガエルの卵塊

**水生生物の保護** 定期調査により、水生生物の安定した繁殖と生息を確認できました（資料p6）。初夏には水面を泳ぐ稚魚の群れも観察されました。しかし、全体に個体サイズが小さくなっている様子が見受け

られ、気がかりです。精査はこれからですが、池の環境を多面的に見ていく必要があります。

保護6年目の二ホンアカガエルは冬に30卵塊を産卵し、これまで最大の繁殖を確認できました。しかし、ふ化率が大変悪く、原因は不明ですが、絶滅が危ぶまれる生物を保護する難しさを改めて実感しました。

### <昆虫の観察>

年間通した観察も7年を積み重ねています。その結果、この地域に生息する主な種類をおよそ把握できたと考えられます。記録は、今後の昆虫類とそれを取り巻く環境保全の次を考えるための基礎データになると考えられます(資料p8)。

**課題** ・作業人手不足 ・水辺外来種 ・アカガエル保護



羽化したオオミズアオ

### 【田んぼづくり事業】

**生きものと里山景観保全** 植物や魚類等生物との共存に配慮しました。田んぼには池の泥や堆肥、ザリガニ粉を投入していますが、土づくりは今後の課題です。畔塗りや稲の成長、案山子、はさかけなどの田んぼ風景は、来園者に里山の懐かしい風景を感じていただけたものと思われま

**楽しく作業** 作業は種籾まきから荒起こしまで、参加者やリピーターさんとともに楽しく元気に米を作り、34 kgのお米を収穫、美味しいおもちをいただきました。子どもたちも生きものに触れながら作業を楽しんで



稲刈り

いました(資料p12-14)。下の田では茅ヶ崎小学校、茅ヶ崎東小学校5年生の米作り学習に協力しました。

**畦の改修** 冬には、畦の崩れや水漏れを改善するため、南側の畦を低くし、堰周辺に土留め板を入れる工事が横浜市により行われました。このあと生態園でも畦の土留めと田へ出入りする際の足場確保のために、他の畦にも板を打込み、使いやすく改修しました。

**課題** 土づくり

### 【自然環境教育事業】

**生態園らしい催し** 計画どおり観察会や体験を実施しました(資料p1-4)。会員の手慣れた「ねこの手サポート」をいただいて円滑に行うことができました。また、撮影写真のウェブアルバムへのUPも継続し好評です。催し終了後には参加者の感想をいただいて次の運営に備えました。概してこども向けの催しでは食に関するものの人気が高く、純粋な観察系は参加者が少ない傾向はこれまで同様でした。関心を引きにくい催しについては、広報や内容の工夫が課題です。

「めざせ！ザリガニマスター」は地域紙掲載を契機に、参加者が増え、年間400人超の参加者からザリガニ7902匹を引き取りました。活用してくださる協力施設として、新たに動物園と科学館にお願いすることができました。

初めての企画として「貝の観察」を行いました。水辺スタッフの専門を生かしたもので、様々な生き物の魅力を発信する生態園の活動の一環として実施できました。

「茅ヶ崎の昔を聞く」も2年目となりました。昔の自然や暮らし、慣習などを伺っていますが、第二次世界大戦とニュータウン開発といった歴史の転換点にお話しが及ぶことも多く、地域の方々の深い思いの一端に触れる貴重な機会となっています。お話しくださる方々のご好意に感謝するとともに、生態園として記録を残していく役を果たしていかなければなりません。

教育機関の自然体験活動支援 お米作りや、小学校個別支援級の活動等、要請に応じて協力しました。都市大学の研究フィールドとして調査研究への協力体制も継続しています。

課題 広報の工夫

### 【自然の普及啓発事業】

**看板等の掲示** 掲示板への植物紹介を継続し、詰所前でパネルや生物展示を行いました。しかし、新しいパネル等の作成、設置に手をつけることができませんでした。使用中のパネル等は色褪せ古くなっているものも多く、刷新が必要です。「三つ折りパンフレット」については、新しく作り直すために専門家の協力をいただいて、2月から検討を始めました。

**生物展示** 特にカメやザリガニ、カエル等は来園する子どもたちに人気があります。それらの飼育には日々のえさやりと掃除が欠かせず、協力者の方にお世話いただいています。

**わかりやすい情報発信** 「めざせ！ザリガニマスター」の外来種駆除と子どもの参加について、水生生物保全シンポジウムでポスター発表しました。また、環境活動賞の応募に際しては、この催しをテーマにプレゼンテーションし、好評を博しました。

**植物ガイドブック** 植物グループが手がけて評判の高い「ようこそ生態園へ」は現在3冊目を作成中です。2017年度に夏号として出版を予定しています。

**地域紙** 「タウンニュース」には毎月、植物や昆虫、鳥等の生物紹介記事と写真を提供し、情報発信の機会を得ました。また、「港北ガーデン」の自然特集号でも生物の写真等と併せて生態園の活動紹介もしていただきました(資料P33-36)。これらも会員による写真提供があって実現できています。

課題 パネル等の刷新

### 【運営ほか】

**来園者アンケート** 151 通の回答をいただきました。「話し相手が多い。自然が豊富」(10代)「田んぼ、水辺はすてき！」(10代)「涼しくて気分がすっきりした！」(30代)「都会の中にあって里山の生態を見られる点が素晴らしい」(60代)「こんな公園初めて見た。横浜の他の地区にも増えるとよい」(70代)など好意的な感想を多くいただいています。ほかに生物への希望や「反対側の門も開けてほしい」「平日開園」「道幅の拡張」「休憩所、水場があるとよい」「道路標識の改善」「駐車場があればよい」等の要望もありました(資料p9-11)。



たき火

**保全作業参加** 小学生親子、中学生、高校生、専門学校生の参加や新規参加者もあり、全般に作業メンバーの高齢化する中で、希望の灯となっています。

**煙へのクレーム** 12月に刈り草を燃やし発生した煙について近隣からクレームをいただきました。謝罪の上、今後、催しでのたき火や作業後のかまどなど計画を事前にお知らせすることを約束しています。住宅地に隣接する当施設は、団体の活動目的を実現するため、地域の方々の理解の元に事業を継続できるように努めていかなければなりません。

**財源不足** 自治体の定める最低賃金は年々上昇しています。変更の都度、スタッフ賃金がそれ以上であるように変更し対応しています。働く側にとっては喜ばしいことですが、団体運営上、特に委託費については数年間同額に抑えられているため、人件費捻出に窮する状況です。担当局に、活動の質を維持するため、考慮いただけるようお願いしました。